

こうとう民報

2011年6月号 80

江東区の職場・地域・議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/



原発撤退署名を訴える区議団(右)

原発災害は日本社会の弱点を明らかにした「人災」

5月28日、ティアラフ江東で日本共産党江東地区委員会主催の「原発問題を考える」学習会が、元中央委員会科学技術局長の鶴尾功氏を講師に開催され、110人余が参加しました。

鶴尾氏は、福島第一原発事故の概要を説明する中で、79年のスリーマイルよりも大きく86年のチェルノブイリの事故に匹敵する深刻な放射能汚染を招いた要因について、「想定外」ではなく「人災」であったことを解明しました。

核エネルギーの開発が冷戦構造のもとで、原水爆や原潜などの軍事利用のためにすすめられてきたこと、さらに、地球の裏側にまで貫通する放射能を制御する技術が未完成のままに、経済効果のみを追求して地震国日本に原発を立地してきた政策と、当初からその危険性を告発してきた共産党国会議員の指摘を紹介しました。

福島原発事故の収束の見通しが不透明な現状で、も



江東区労連「第29回定期大会」

江東区労連は5月29日、定期大会を開催し、91名が出席しました。今回の大会では、震災問題での取り組みや未組織労働者の組織化の経験の発言が注目されました。

会社との交渉や労働審判で12件の労働事件を解決。労働相談を通じての加入が38人に達しました。ある職場では、パート労働者が時給を140円も下げなければ更新しないと会社から圧力がかったと相談。正規の労働組合と相談して、会社と交渉して時給切り下げを阻止したと報告がされました。

し再度水素爆発で放射能の拡散がおこれば、日本は人間が住めなくなる危険もありうる」と警告します。

今緊急に求められる課題は、「安全神話」から決別して54基の原発の総点検を急ぎ、権限をもった原子力安全委員会の確立とともに、期限を決めた原発からの撤退

高い線量が検出されていると指摘しました。

選挙後 初となる第2 回定期大会は6月8日から13日の会期で開かれました。代表質問で斉藤信行区議は現行地震規模の想定(M6.9及びM7.3として)を大幅引き上げ、今度の地震で被災したマンションの復旧工事に対する区の独自の補助額引き上げと対象拡大 津波、高潮対策の想定見直し 震災の影響が大きい中小企業支援と災害から区民

を守る区職員の増員などを求めました。大つきかおり区議は原発事故と原発技術そのものに対する基本認識と自然エネルギーへの転換、区内の放

射能汚染の調査と対応 液状化対策 介護保険のさらなる改善中止と特養ホームの増設を求めました。赤羽自たみお区議は高すぎる国民健康保険料の

引き下げ 認可保育園の増設で保育環境の維持・向上と待機児解消を図ること 災害に強い医療体制を作るために医師・看護師不足の解消と都立病院の体制強化、昭和大新豊洲病院に差額ベッド代のかからない病床を増やすことなどを求めました。

訂正とお詫び 「区議団の役割と構成」の記事の中で「建設委員会」正保みきお区議「が欠落してしまいました。訂正し、お詫び申し上げます。

梅雨の晴れ間には30度を超え、熱中症が心配な夏が来ます。大震災からの復旧はすすまらず、原発事故は収束どころかトラブル続き、飯館村は全村避難です。作家の村上春樹氏はカタルニア国際賞の授賞式で「日本は核にノーと呼び続けるべき」と発言。唯一の被爆国が今や加害国になり「リメンバー・ヒロシマ」のCDも発売中止に追い込まれたそうです。青森・六ヶ所村には基幹産業として核燃料の処理工場があり、国や県の補助を受けている村民の平均年収は1300万円といわれています。「原発さえなければ」と後ろ髪を引かれる思いで離散していく被災者とは対照的です。石原都知事がまた「核保有・徴兵制」と時代錯誤の暴言です。第五福竜丸・死の灰事件から核廃絶の草の根の運動で世界を動かした日本に、濃縮ウランと原子炉を供給してきたアメリカの意図と原発推進で応えた自民党政治の大罪を忘れてはなりません。7月2日「原発ゼロをめざす緊急行動」が呼びかけられ、江東でも原発問題の学習会が教組や高齢者集会実行委主催で開催されます。また大震災に乗じた消費税増税、TPP参加、衆院比例定数削減、憲法改悪など大連合の悪政を許して後世に禍根を残してはなりません。

投稿 「スカパー」の巨大アンテナ反対」の陳情審査会では、電磁波問題は大きな案件だから継続した方がいい」と、4年間審議が継続されてきた。

「巨大アンテナ反対」の陳情審査会 区議会自民・公明・民主・「みんな」の党

無視し議会の役割を放棄したもので、民主主義にもとるもの。この議会の横暴は断じて許せない。特に「電磁波は子供たちに大きな健康被害を及ぼす」と言われており、住民は強い危機感を抱いている。最近WHOも携帯電話の発ガン性を指摘したばかりである。

原告団長・猪又 和子 (東陽2)

宮城県・石巻市・女川町

ボランティア活動に参加して 区議会議員 正保みきお

避難所の体育館では、一人あたりタタミ1畳分で仕切れ、体調が悪いのだろうか、横になって寝ている高齢者があちこちに見られました。冷たく硬い床の上で、先の見えない不安な生活を余議なくされている姿を思い浮かべるとき「もっと私にできることがあるはず」と思わずにはられません。

私は5月12日～18日、宮城県石巻市にある日本共産党の救援支援センターを拠点にして、要望の聞き取り、物資の届け、泥上げ、ニュース作りなどを行ってきました。

救援ボランティアの人たちは、届けられた野菜や果物、米などを小分けし「青空物資お届け」に間に合わせるため、早朝からあわただしく動いています。浸水家屋のヘドロ出しの要望も多く「猫の手も借りたい」というのが現地の実情です。Tシャツ、下着などの夏物衣類の提供も急がれます。被災地と心ひとつに支援の輪を広げていきましょう。



全国から避難所に送られてきた励ましの絵手紙

福祉・医療・年金の充実を！

花咲きデモ



6月8日、東陽公園に10団体・180人余が参加し、花咲きデモが行なわれました。集会では、震災でたく

さんの人が苦しんでいる中、国会で要支援者を介護給付から外す法案が衆議院で可決されたことや、年金給付0.4%の引き下げが行なわれたこと、さらには高齢者の医療制度の改善、生活保護の支給に期限を設けるなど制度の根本をゆるがす改善が検討されていることに、怒りの声が寄せられました。

「いまこそ、憲法25条で保障されている権利（健康で文化的な最低限度の生活を営む権利）を広げていくことが大切。暮らしを守り、子どもたち孫たちに平和な日本を！社会保障の充実した日本を受け渡せるよう大きな声をあげましょう！」との集会アピールを採択。参加者は区役所までアピールウオークを行ないました。



あたたかい友の会づくりを！ 江東・健康友の会定期総会

6月7日、東陽町・産業会館にて定期総会が開かれました。今回の震災で、会員のみなさんから「防災放送が聞こえなくて不安」という声が寄せられ、健康友の会は、路上での調査活動やスーパーでの宣伝活動を実施。「防災無線の改善を求める要望書」を江東区に提出しました。

住民要求、医療・介護の改善の運動を広げるとともに班活動、サークル活動に取り組み、ひとりぼっちをなくす、新しい班づくり、あたたかい友の会をつくっていきましょう！との議案を採択しました。

震災復興と消費税増税の阻止を！ 江東民主商工会定期総会

6月19日、東大島文化センターにて定期大会が開催されました。東日本震災後、材料費の値上げと品不足で工事が進まず、入金はないが給料など固定費はかかり、資金



動（自由社）と題するコラムを載せています。歴史をわい曲し、日本国憲法を敵視する教科書を子どもたちに渡すわけにはいきません。採択が行われる7月21日、22日の教育委員会をぜひ傍聴してください。また教科書採択は学校現場の意見を尊重し、育鵬社、自由社の教科書を採択しないよう個人・団体での申し入れをおこなってください。（子ども教科書全国ネット21）

子どもたちに こんな教科書は渡せない！

今年には中学校教科書の採択が行われます。新しい教科書をつくる会は分裂し「日本教育再生機構」は育鵬社から、「つくる会」は自由社から歴史・公民の教科書をだしている。国際紛争は話し合いではなく、軍事力で解決するのが当然とし、「戦争初期のわが国の勝利は、東南アジアインドの人々に独立への希望をあたえました」（育鵬社）と記述し、「アジアの人々をふるい立たせた日本の行

行事日程

- 7月6日(水)「原発問題を考える学習会」
(23回江東区高齢者集会実行委員会)
19時30分 江東区文化センター・第三研修室
- 7月15日(金)「憲法を生かして震災復興を！学習会」
(区民要求実現江東大運動実行委員会)
19時 江東区産業会館・展示室
- 7月19日(火)「都立墨東病院存続宣伝行動」
10時30分 墨東病院門前